



令和4年9月1日現在
世帯数 2,906 世帯
男 3,267 人
女 3,413 人
総人口 6,680 人

シリーズ 沙田神社と御柱

来年は、沙田神社の御柱祭です。七年に一度、卯年と酉年で交互に行われます。七月には、御柱の仮見立て（下見）が行われ、来年の例大祭に向けて準備が始まりました。

村からも住民が参加したそうです。

柱の長さは、一の柱が一番長く五・五尺（約一六・五m）、一の柱から順に三寸（約九cm）づつ短くなっているそうです。

御柱は、これまで奥社の鎮座する鷺沢山、波田の山林や官林から引き出していました。現在、波田の私有地から引き出しています。一の柱は三ノ宮・中村、二の柱は永田・町区、三の柱は大庭・小柴、四の柱は荒井・堀米です。それぞれ二つの町会で一本の柱を受け持ちます。昔は、旧島立組の新村・波田など周辺の

仮見立ての後は、結納、本見立て、曳き綱、根倒し、四方締め、山出し祭、里曳き、建立祭と行事が進行していきます。

千年以上にわたり先人達が受け継いできたお祭りを、先人の想いと共に後世に繋いでいく事は容易なことではありませんが、盛大に安全に行われることを願います。

三の柱 仮見立て



大庭町会



小柴町会

南栗遺跡発掘調査見学会

8月18日（木）、島立公民館主催の「南栗遺跡発掘調査子ども向け見学会」が行われ、19人の子どもと保護者が参加しました。

南栗遺跡とは

南栗の栗林神社周辺では昭和58年から60年にかけて、圃場整備等に伴う発掘調査を松本市教育委員会が行い、平安時代の竪穴建物跡や掘立柱建物跡が多数見つかかり、銅腕が出土しました。

昭和60年から61年にかけては、長野自動車道建設に伴う発掘調査を長野県埋蔵文化センターが行い、平安時代の竪穴建物跡322軒、掘立柱建物跡104棟のほか、お墓や水路などが見つかかりました。

南栗遺跡の古代集落は、広大な土地を新たに開拓した人たちが暮らす村だったようです。村の中はいくつかのグループに分かれており、それぞれが安土・桃山時代頃まで続いたことが明らかになっています。

現在の発掘調査

今回は中部縦貫自動車道

（松本波田道路）の建設に先立つ調査で、5月から発掘を開始しました。中部



縦貫自動車道の用地は、長野自動車道から西側へ延びるため、来年以降も続く調査では、南栗遺跡の古代集落が西側へどこまで続いているのかが解明できるものと期待されます。

今年の調査では、既に平安時代の竪穴建物跡が31軒、掘立柱建物跡が2棟、土坑が4基見つかかり、多くの土器も出土しています。

出土した土器には、赤褐色をした土師器や、土器の内側が黒い黒色土器、釉として灰をかけた灰釉陶器などがあります。

子ども向け見学会

夏休み期間中ということもあり、今回の見学会は子ども向けの開催となりました。はじめに長野県埋蔵文化財センターの河西さんから南栗遺跡の説明があり、発掘現場では

されたカマドと、カマドから土器が出土している様子を見学しました。見学後は実際に出土した土器に触らせてもらい、硬さや表面のざらつきなどを確かめました。参加した女子児童は、「初めて土から顔を出している土器を見た。普段は博物館などの展示ケース越しにしか見られない土器を間近で見られて、触ることができてとても良かった」と話していました。



調査の今後

現在の発掘場所は11月末まで調査が続く予定です。また、発掘場所は毎日公開しているため、見学可能です。ただし、土曜日や祝日、雨天のときなど発掘をしない日があるため、発掘の見学を希望される場合は、可能であれば事前に南栗遺跡発掘調査事務所の調査担当者を訪ねていただくか、島立公民館（TEL471-2049）へご連絡ください。

島立っ子 森・杜探険隊 朝日村へ行く

8月10日(水)、森・杜探険隊による「ヤマメのつかみ取り体験」が朝日村で実施され、約30人の児童ならびに保護者が参加しました。

同村でヤマメの養殖を行っている「せせらぎ山女魚園」の山田さんから説明を受け、二つのグループに分かれてつかみ取りを行いました。ヤマメは素早く、ぬめりもあり、最初は子どもたちも上手くつかむことができませんでしたが、冷たい水の中を右往左往しながら必死に追いかけ、最後には全員がつかまえることができました。

つかみ取りの後は、炭焼小屋の「もくもく体験館」でヤマメを炭火で塩焼きにして食べました。この一連の流れは、飽食の時代に食べ物があるありがたさや、動植物の命をいただいていることへの感謝な



台にしたり、思い思いの方法で外遊びを満喫しました。参加した男子児童は、「どれも楽しかった。来年もまた参加したい」と話していました。島立っ子には、これからも遊びや体験を通じて、元氣よく育ってほしいものです。

縄文むら



ど、食育も兼ねて実施しているそうです。

午後は朝日美術館(上條俊介記念館)へ移動し、朝日村で出土した土器や、昔の農機具等の展示を見学しました。上條俊介氏は「播隆上人像」で有名な朝日村出身の彫刻家ですが、島立とも縁があり、上條氏は戦時中に東京から島立三の宮に疎開していたそうです。また、島立小学校には同氏の作品が展示されており、機会がありましたらご覧ください。

美術館の隣には「縄文むら」という広場があり、子どもたちは鬼ごっこをしたり、小高い山に段ボールを敷いて滑り台にしたり、思い思いの方法で外遊びを満喫しました。

参加した男子児童は、「どれも楽しかった。来年もまた参加したい」と話していました。

島立っ子には、これからも遊びや体験を通じて、元氣よく育ってほしいものです。

高砂百合(外来種)



向日葵



南栗打上花火

小柴町会 夏休みラジオ体操の様子

子どもたちが待ちに待った小学校の夏休みが7月23日(土)から始まりました。

夏休み行事の一つであるラジオ体操。小柴町会は、密を回避するために、島立運動広場の広い敷地内で25日から5日間行われました。

取材日の28日(木)は快晴で、児童や保護者が



続々と集まり、約30人が朝日を浴びながら体を動かしました。しっかりと体を動かさずには済まなかった。ラジオ体操ですが、朝は涼しい気候のおかげで、爽やかに体操することができました。

その後、高学年の児童は小柴公民館の草取りと小柴信号交差点の地下道清掃を行い解散しました。心も身体も気持ちよく、1日をスタートすることができたのではないかと思います。

スクエアダンスを体験

7月27日(水)、島立公民館で健康づくり推進員がスクエアダンス体験を行い、16人が参加しました。

コロナ禍により地区や町会の行事が停滞し、健康づくり推進員としての活動を模索する中、推進員相互の交流や自身の健康づくりを目的に開催されました。

数年前にストレッツ教室などでお世話になった種山貴代美さん(堀米)が今回も講師を務められ、スクエアダンスの基礎を習いました。

スクエアダンスとは、8人が一つのチームとなり、「コー

ラー」と呼ばれる指示者の指示に従って踊るダンスです。軽快なリズムに乗りながら楽しく踊ることができ、運動不足解消も期待されます。当日は、まず4人のペアで5種類ほどの基本の動きを習い、最後は実際に音楽に合わせて体を動かしました。

参加者は、「普段の会議では近くに座る方としか話す機会が無かったけれど、ダンスを通じて多くの方と会話ができた。ダンスも盛り上がり、とても楽しかった」と話されていました。

